

平成31年度 県立文学館「自主学習会」会員募集

2018/12/06

文学に親しむための「自主学習会」が、各会年間10回程度、群馬県立土屋文明記念文学館で開催されています。申し込みは往復はがきで2019年1月31日(木)必着です。

(当館は募集の代行など最低限のお手伝いをしますが、各会は会員相互の協力による自主的な運営となります。)

「県立文学館 短歌の会 —講師講評から学ぶ—」

講師: 田村元氏(たむら はじめ、歌人・「りとむ」「太郎と花子」所属)

開催日時: 原則第4土曜日(4月~3月の間に10回(6・9月は休み)を予定) 午後1時15分~2時45分

年会費: 20,000円 募集人員: 40名

内容: 作品の批評を通して短歌実作の基礎を学びます。

初回は自由題ですが、2回目以降は先生から出される兼題(けんたい、事前に出される題)にあわせ、毎回2首ずつ提出します。田村先生が各会員の短歌を1首ずつ選び、翌月に講評を行います。

「県立文学館 短歌相互学習会 —詠草添削と歌会(うたかい)から学ぶ—」 講師: 田村元氏

開催日時: 原則第4土曜日(4月~3月の間に10回(6・8月は休み)を予定) 午後3時~4時45分

年会費: 10,000円 募集人員: 30名

内容: 詠草係がとりまとめ、毎回1首添削を受けることができます。歌会形式で会員相互の批評を行い、最後に田村先生からの添削が配られます。10月の「野外歌会」では昼食をともにし親睦を深めています。年に3回(4月、7月、1月を予定)は先生が15時頃から出席し、直接指導も受けられます。(新会員には、初回到会の進め方の説明があります。)

「県立文学館 はじめての俳句(初級)」 講師: 鈴木章和氏

(すずきしょうわ、俳人・NHK学園俳句専任講師・NHKラジオ「文芸選評」選者・「翡翠(かわせみ)」主宰)

開催日時: 原則第3土曜日(4月~3月の間に10回(6・8月は休み)を予定) 午後1時30分~4時15分

年会費: 20,000円 募集人員: 25名

内容: 句会形式で楽しみながら俳句の表現技術を身につけます。まったくの初心者も歓迎しています。

会員は毎回3句ずつを作って参加します。題は基本的に自由です。句会では、作者の名前が伏せられた鈴木先生と会員の俳句の中から、会員一人一人が5点ずつ、自分が良いと思った句を選んで発表します。その後、鈴木先生が良い句を選び、批評を行います。会員の皆さんの感想をうかがうこともあります。

また鈴木先生から毎回一人ずつ俳人の紹介や、俳句の上達法などの指導があります。俳句の歴史を学びながら、自分の俳句づくりの参考とすることができます。

「県立文学館 俳句学習会(初級~中級)」 講師: 鈴木章和氏

開催日時: 原則第1日曜日(5月~3月の間に10回(8月は休み)を予定) 午前10時30分~午後1時15分

年会費: 20,000円 募集人員: 25名

内容: 学習会の進め方は「県立文学館 はじめての俳句(初級)」と同じ

「県立文学館 章和俳句会(中級)」 講師: 鈴木章和氏

開催日時: 原則第3土曜日(4月~3月の間に10回(6・8月は休み)を予定) 午前10時30分~午後1時15分

年会費: 20,000円 募集人員: 25名

内容: 中級者(俳句を作った経験がある方)向け。学習会の進め方は「県立文学館 はじめての俳句」と同じ

「県立文学館 翠句会(上級)」 講師: 鈴木章和氏

開催日時: 原則第1日曜日(5月~3月の間に10回(8月は休み)を予定) 午後1時30分~4時45分

年会費: 20,000円 募集人員: 15名

内容: 上級者向け。学習会の進め方は「県立文学館 はじめての俳句」と同じ

「県立文学館 詩の講座」 講師: 関口将夫氏(せきぐちまさお、詩人・画家)

開催日時: 原則第2土曜日(4月~3月の間に10回(8月は休み)を予定) 午後1時15分~2時45分

年会費: 20,000円 募集人員: 40名

内容: 実作指導を通して現代詩を学びます。会員は毎回、詩を1篇ずつ提出します。詩の朗読についても合わせて学ぶことができます。

「県立文学館 絵手紙の会」講師:福田登美恵氏(ふくだとみえ、日本絵手紙協会公認講師)

開催日時:原則第3土曜日(4月~3月の間に10回(8月は休み)を予定) 午前9時45分~12時

年会費:5,000円 募集人員:40名

内容:生物や景色など詩歌に詠まれた風景を絵で表現する手法を学びます。

絵手紙とは葉書きに絵を描き絵に関連したことばあるいは絵と共に伝えたいメッセージを添えたものです。絵がにがて、作文がにがて。そういう方も、絵手紙で気持ちを伝えることができます。

テーマは季節の花々などが中心です。会員は事前に描いた作品を持ち寄り、当日会場でも描きます。それぞれの作品をホワイトボードに貼り、先生と会員相互で意見を述べ合います。

(お持ちの方は、初回到絵具一式(顔彩等)をご持参ください。お持ちでない方には道具をお貸しします。)

「県立文学館 古典学習会」講師:吉永哲郎氏(よしながてつろう、源氏物語を読む「蘇芳(すおう)の会」主宰)

古典学習会 1. 古今和歌集の世界(+更級日記を読む)

開催日時:原則第2土曜日(4月~2月の間に8回(8・10・1月は休み)を予定) 午前10時30分~12時

年会費:8,000円 募集人員:96名

内容:醍醐天皇の命により紀友則、紀貫之、凡河内躬恒、壬生忠岑を選者として編まれ、延喜5年4月18日(905.5.24)に奏上された『古今和歌集』を講読します。仮名序(和文)、真名序(漢文)の二つの序文、四季(巻第一~六)、恋(巻第十一~十五)の二大歌群を含む1,111首・全20巻からなり、漢詩主流の時代を経た『万葉集』(8世紀成立)以来の和歌復興の出発点となって、長く和歌の規範とされてきた歌集(ほぼすべて短歌)です。

(折に触れて、平安時代中期、10世紀に菅原孝標女が書いた『更級日記』も講読します。10代前半から50代に至るまでの人生を、88首の和歌を織り交ぜながら、中流貴族の女性が自伝的にふりかえる作品です。父の任地である上総国(現在の千葉県中部)で『源氏物語』にあこがれ、京都に戻り読みふけた少女時代を過ごしたものの、親類の死など様々な厳しい現実を経験し、やがて仏教に傾倒するに至ります。)

前年度から継続した内容ですが、新規の会員も歓迎です。オリジナルテキストが配られます。

古典学習会 2. 源氏物語講読「若紫」を読む

開催日時:原則第4土曜日(4月~2月の間に8回(6・8・1月は休み)を予定) 午前10時30分~12時

年会費:8,000円 募集人員:96名

内容:平安時代中期に紫式部が書いた『源氏物語』全54帖から、第5帖「若紫」を講読します。桐壺帝の第二皇子として生まれた「光る君」は、源氏を賜って臣籍降下し、4歳上の葵の上と結婚しています。

桐壺帝の中宮である藤壺の宮を恋慕う源氏は、藤壺とよく似た少女(実は藤壺の姪、後に源氏の妻の一人・紫の上)を見かけ、身近に置いて育てたいと願いますが、祖母の尼君らには相手にされません。病のため宮中を出た藤壺との密会、懐妊の後、藤壺からの連絡も絶えてしまった源氏は、尼君亡き後少女を強引に引き取り、藤壺の面影を重ね合わせながら育てることになります。光源氏18歳春から秋にかけての物語です。

前年度から継続した内容ですが、新規の会員も歓迎です。オリジナルテキストが配られます。

※連絡網等のための個人情報や会費の取扱いは、各会の責任でお願いしております。

ご理解・ご了承のうえ、お申込みください。

会場 :群馬県立土屋文明記念文学館 2階研修室

対象 :会員相互で協力して「自主学習会」を円滑に運営し、継続して参加することができる方。
(会員間の連絡や会の円滑な運営のため、連絡網等にご参加いただくことをご理解ください。)

※前年度からの継続受講も、改めてのお申し込みが必要です。

申込方法:往復はがきの往信用はがき文面に「自主学習会「〇〇」希望」と氏名(ふりがな)、年齢、郵便番号、住所、(できれば携帯)電話番号を、返信用はがき宛名面に郵便番号、住所、氏名をご記入のうえお送りください。

お申し込みは一講座につき一人一通まで。会によっては募集人員を超えた場合抽選となります。

締切 :2019(平成31)年1月31日(木)必着。

結果及び実施日程、初回に用意するものなどについて、2月中に返信用はがきでご連絡します。

(実施日程はさらに変更になる場合があります。急な中止等の場合、可能な限り補講を行います。)

年会費 :初回に各会代表までお納めください。

辞退の場合は、必ず3月末までにご連絡ください。(4月以降の辞退はできません。)

徴収等、年会費に関係することに当館は関わるできませんので、自主的運営をお願いします。

その他 :各学習会とも、募集人員を下回る場合、開催できないことがあります。

俳句、詩、絵手紙の各会については、年度途中でも参加が可能な場合があります。

県立文学館までお電話でお問い合わせください。

宛先 :群馬県立土屋文明記念文学館 〒370-3533 高崎市保渡田町2000番地 電話 027-373-7721